

## “ひらかわ産婦人科医院” 11月の開業に向けて

現在の産婦人科医不足は、分娩に伴う医療訴訟の増加や出生数の低下などにより、全国的にも産科医師の不足が叫ばれて久しい。

ここ大分においても、開業医の高齢化や後継者不足などにより、一層産科開業医の廃院現象に歯止めがきかない状況を呈している。

県内唯一、今後も定住者人口が増え続けると予測されている、大在・坂ノ市地域で、年間約500名以上の新生児を出産する妊産婦の方々は、『くまがい産婦人科』が分娩機能を閉鎖して以降、身重の体を抱え、車や公共機関を乗り継ぎ大野川を越え、中心部の分娩施設へ通わざるを得ない状況におかれている。

普通の分娩であれば、それも百歩譲って可能であるが、帝王切開や急なお産などでは、居住地域に安心して受診ができる産婦人科の女性専門医師が居てくれることは、妊産婦や女性特有の疾患を持つ方々にとっても心強い存在になると思う。

現状把握のため、大在・坂ノ市地域の妊産婦の方々にヒヤリングを行ったところ、『産婦人科医が来てくれるのであれば、署名活動を行っても良い』という意見も多かったと伺った。

産婦人科クリニックは、当社としても2005年 杵築市に「くりやまレディースクリニック」、2008年 県南佐伯市に「すがのウィメンズクリニック」、2018年大分市内下郡に「いしい産婦人科医院」を誘致し、それぞれの地域の妊産婦の方々に、今でも大変喜んで頂いている。

それぞれの院長とは、今でもお話をする機会があるが、周産期医療は24時間が日直当直の日々過酷なルーチンワークであり、したがって今回『平川東望子医師』に巡り会えた偶然は、当社にとっても人生をかけた必然であると思っている。

現在、秋の開業に向けて当社としても過去の経験を総動員し、全力投球で様々な打ち合わせと作業の日々である。

どうか皆様、秋にリニューアルし、全貌を一新した『ひらかわ産婦人科医院』の竣工と完成見学会、そして是非、開業の日を楽しみにお待ちください。

そして、28年の長きにわたって、同地域の周産期医療を支えてこられた熊谷淳二先生に満腔の敬意を込めて『お疲れ様でした。長い間本当にありがとうございました』と、お伝えした次第である。



「・・・お母さん頑張ってね!!」